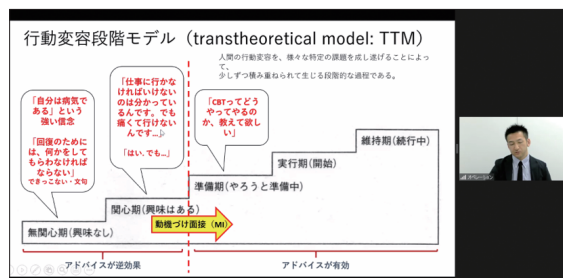


「動機づけ面接」講演

札幌学院大学人文学部 北田雅子先生と東京大学病院麻酔科 痛みセンターの笠原諭先生を講師に迎え、「動機づけ面接」講演会を実施いたしました。動機づけ面接(MI)は、アルコール依存症の治療を専門とする行動療法家であるミラー博士とロルニック博士によって構築された面談スタイルで、アルコールに問題を抱える来談者への面接技法を研究するプロセスにおいて、治療成績の良かった治療者の面談スタイルを実証的に解析することから体系化されたものです。来談者自らが行動を変えたいと思う動機を引き出し、強化することによって機能します。今回の講演会では事前に参加申込者から対応に困っている症例について伺い、より具体的な慢性疼痛患者へのMIを用いた患者対応についてお二人の先生にご講演頂きました。

講演会には大地震の翌日にもかかわらず、185名の方が参加して下さいました。次頁に参加者の皆様から寄せられた講演後の感想を掲載致します。今年度のWEB講演会では、ワークショップの実施は叶いませんでしたが、次の機会には皆様と直接の意見交換やワークショップができることを楽しみにしております。

最後に、慢性疼痛診療の現場で看護師がどのようにMIを使用しているかについて本幸枝先生の論文を転載いたします。星総合病院では2016年から北田先生のワークショップなど、MIの勉強会に積極的に参加し、看護業務にMIの技法を取り入れています。MIが実際の臨床場面でのどのように用いられているか、参考にしていただければ幸いです。



厚生労働省 令和2年度 慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業

●動機づけ面接法(以下MI)とは？
慢性疼痛や薬物などの依存症治療から実証研究を経て開発された面接スタイルです。
MIにおける「動機づけ」は単に「誘引」ではなく、患者のための動機づけはクライアント自身から引き出します。MIの特徴は、人の行動を変える意図のある高構造的(意図的)な介入を伴わないことです。個人、個人間の関係性や環境は変化し、行動変容の準備期に合わせ、患者の病歴・感情・認知・信念・価値観・生活環境などの背景を踏まえて「動機づけ」を行います。準備期・実行期・維持期を併せて、必要に応じてクライアントと関係性を変えていきます。これはその背景に合わせた生活環境を整え、患者自身が行動変容を促すことができます。

【司会】伊達 久 先生(仙台ペインクリニック 院長)

講演1 『慢性疼痛に対する動機づけ面接』
【講師】笠原 諭 先生
● 福島県立医科大学疼痛医学講座 / 東京大学附属病院麻酔科痛みセンター
● 動機づけ面接調査研究所 理事
● 麻酔科標榜医 精神保健指定医 日本精神神経学会 精神科専門医
● 臨床心理士 / 公認心理士
発表 「しつこい痛みは「症状」である」「動機は自分で出す！」「我々が提供する「動機づけ」は、患者が自ら新しい動機を育み、克服法」

講演2 『患者さんの気づきを促し自己決定を促す関わり方』
【講師】北田 雅子 先生
● 札幌学院大学 人文学部 Prof. PhD
● 動機づけ面接調査研究所 代表 ● 日本臨床コーチング 幹事
● MINTトレーナー Member of Motivational Interviewing Network of Trainers
発表 「医療スタッフのための動機づけ面接法 変革学習資料」「医療スタッフのための動機づけ面接 動機づけの生活習慣例におけるMI実践」

2021年 2月14日(日) 14:00~16:00 ※13:30開場

参加申込方法 以下のフォームより事前参加申込みをお願い致します。
<https://forms.gle/YadiefT5UqAv8u828>

参加申込期間 2021年2月8日(月)まで

参加無料

※講師代 慢性疼痛患者さんに関わる職種の方々 ※東北地区に限る※

お問い合わせ先 福島県立医科大学 医学部 看護医学講座 (野村 尚蔵) TEL/FAX 024-547-1987 E-Mail kozumaga@fmu.ac.jp 主催 福島県立医科大学 医学部 看護医学講座

